

菅野雄教授定年退職記念号に寄せて

法学部長 村田 彰

菅野雄先生は、二〇〇七年三月末日をもって流通経済大学法学部を定年により退職されました。先生は、一九五九年三月に京都大学農学部を卒業後、同年四月から人事院に入庁され、人事院管理局人事課長（一九八三年一月）、人事院公務員研修所副所長（一九八四年四月）、人事院管理局審議官（一九八六年四月）、人事院管理局長（一九八八年四月）、と人事院での官職に就かれました。一九九一年四月、福島大学行政社会学部教授に就任され、同大学で八年間にわたり教鞭を執られた後、一九九九年四月に福島大学名誉教授の称号を授与されました。そして、二〇〇一年四月に本学法学部教授に就任され、二〇〇三年十一月には、瑞宝中綬章を授与されました。

このように、先生は長く公職に就いておられましたので、先生の学問的業績の中でもとくに顕著なのは公務員制度に関する分野であり、先生は公務員制度に関する貴重な改革案を述べておられます。たとえば、先生は、公務員制度の改革要因として、政と官との関係のあり方、公務員の不祥事の防止、公務員制度の不全状況の改

善、の三つを挙げ、法制度の改革にとどまらず、人事慣行を含めた人事管理システムについても改革を進めることを提言され、改革に際しては、国家公務員制度の根幹である「公正性」、「代償性」、「専門技術性」を高めるような改革でなければならないことを力説されています。

先生とは大学図書館の横にある坂道でよくお会いしました。先生はいつも明るく接して下さり、よく話しかけても下さいました。どの方にもそのように接しておられたように思われます。また、先生の講義時間と私の講義時間とが近いためでしょうか、講義をなさっている先生のお姿をよくお見かけしました。先生ははつきりとお話をなさるので、外からでも先生の講義を十分に聞くことができました。思わず窓越しに先生のお姿をみますと、先生はいつも全身全霊で講義をなさっていました。また、先生は、法学部の教授会においては勿論、忘年会などでも、学生の学力向上や進路指導のあり方について熱心に語られ、研究のみならず教育の重要性についても強調しておられました。そして、宴会では、ときには身振り手振りよろしく歌っても下さいました。このように、本学での先生は、青年のように情熱をもって教育や研究について語られ、われわれの模範のような方でした。

そこで、法学部教授会は、本学部に対する先生のご功績に報いるにはあまりにもささやかですが、心からの感謝の意をこめまして、本号を先生に捧げるものです。

最後に、先生のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

二〇〇七年十一月